

TOKYO ARTISTS

松本 明彦
MATSUMOTO Akihiko

キーワード：東京、アーティスト、ポートレート

Keywords : TOKYO, ARTISTS

The so called "lost ten years", starting after the collapse of the bubble era at the beginning of the nineties, were a hard time not only in economical aspects, but it is considered as a sour period for the art scene and culture in general too. However, the art scene didn't stand still: art exhibitions were opened every day, new artists were born, parties were held. So, I took my 4×5" large format camera and went to exhibitions, to ateliers and the artists' living places to make portraits. The resulting photos have been arranged in a series, I call "TOKYO ARTISTS".

This text covers the photo exhibition, held in the Nagaoka Institute of Design in 2007 as well as the photobook "TOKYO ARTISTS".

バブル崩壊後の'90年代初頭のからの10年は「失われた10年」と呼ばれ、経済面のみならず文化的にも、あるいはアートシーンでも不毛の時だと言われました。しかしアートシーンは立ち止まっていたわけではありません。そこかしこで毎日展覧会が開かれ、新しいアーティストが誕生し、パーティーが開かれていました。

当時デジタルフォトのアート作品を制作していた私も、デジタルの自由さ、クォリティーの高さに惹かれながらも、アナログ的な「手で触れられるモノ、重さを感じられるモノ、体温を感じられるモノ、人間同士コミュニケーションが取れるモノ」が恋しく感じ始めた頃でした。そこでテーマに選んだのが「TOKYO ARTISTS」でした。

毎日大好きなアートを見にギャラリーに、美術館に出かけ、オープニングパーティーでアーティストに話しかけました。そしてそのアーティストを展覧会場、アトリエ、自宅まで出かけ、4×5の大型カメラで撮影したポートレートが、この「TOKYO ARTISTS」のシリーズです。

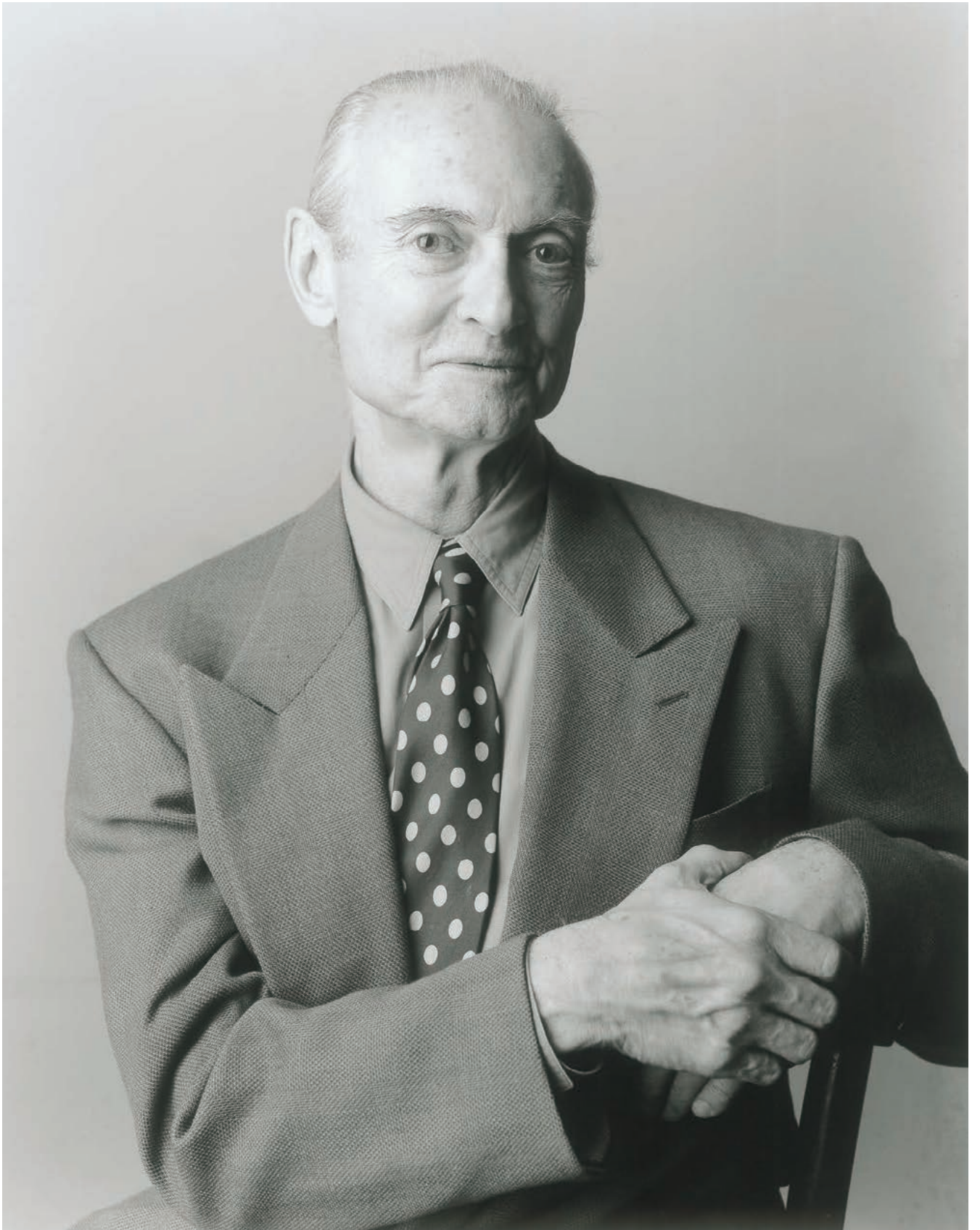
撮影したアーティストは100人。大学院を卒業したばかりの村上隆、取り壊されてしまった佐賀町エキジビットスペース前での奈良美智、谷中に居た会田誠、初代レントゲン藝術研究所での館屋法水、まだ東京藝術大学の助手をしていた小谷元彦、そして今は亡きロイ・リキテンシュタイン、ジャン・ボードリヤール等々がこの「TOKYO ARTISTS」でご覧頂けます。この研究紀要では、その中から代表的な3枚をご覧頂きます。「TOKYO ARTISTS」には「'90年代のTOKYOのアートシーン」が写っているのです。

撮影機材

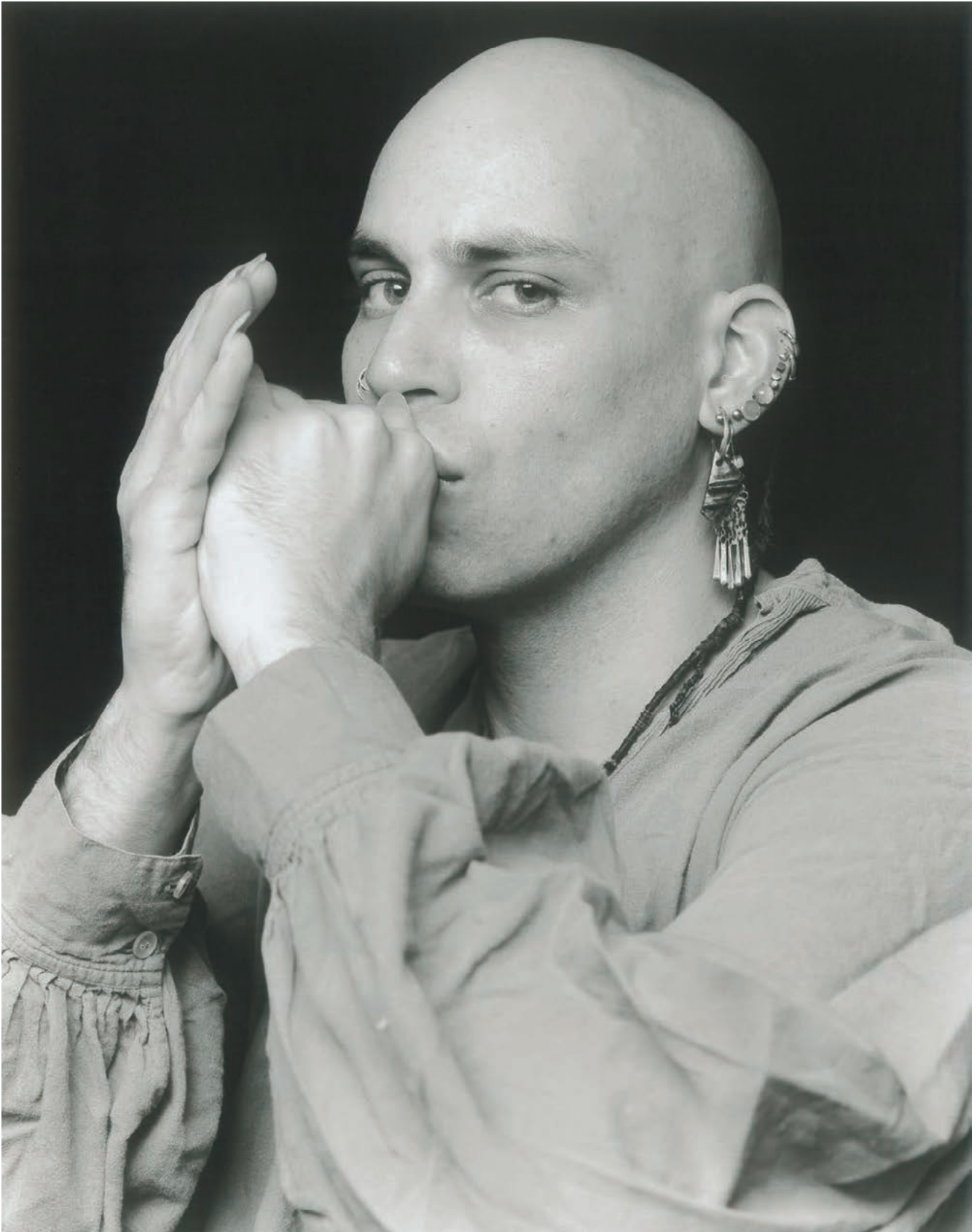
- ・ホースマンLX45
- ・ニッコールレンズ 90mm、150mm、300mm
- ・フィルム T-MAX100
- ・コメット2400CB-a
- ・SDソフトボックス

【参考文献】

- ・松本明彦 2007 「TOKYO ARTISTS」
長岡造形大学 松本研究室



Roy Lichtenstein



Michael Perrick



小谷元彦